



いきいき！ニュースレター 5月号

年齢の若い患者さんへのマッサージ

特定 16 疾病に該当する患者さんは、40 歳からの介護保険利用ができる事になっており、必要な方からは医療マッサージをご依頼いただくこともあります。

医療マッサージを受ける若い患者さんは、脳血管疾患の方が一番多いです。他にも、筋萎縮性側索硬化症、後縦靭帯骨化症、がん末期、多系統萎縮症、脳血管性認知症、パーキンソン病、慢性閉塞性肺疾患で、若い年齢の患者さんを担当したことがあります。

若い患者さんには、高齢の患者さんとは違う種類の、細やかな気遣いや対応が必要です。例えば会話選びですが、身体の自由が利かない患者さんに“休みの日に〇〇へ行ってきて楽しかった”という話を聞かされたら、どんな気分がするでしょう。自分とそれほど年の離れていない患者さんだからこそ、よけい敏感にならなくてはならないと思っています。

脳血管障害後遺症の患者さん

40 代の男性で、心臓の手術を受けた際に血管に血栓が詰まり、脳梗塞を起こし後遺症が残りました。高次脳機能障害があり、開始時はご本人の気力がかなり衰えている様に感じました。生活も昼夜逆転し不規則になっていました。うまく言葉のろれつが回らず、話すのもおっくうな感じでしたので、お母様に状態やマッサージなどの説明をし、それを横でご本人に聞いてもらいました。ポジティブな経過や見通しなどを聞いてもらう事で、少しずつ気持ちの変化がみられました。

足が動かないとご本人も周囲も思っていました。マッサージ中に「足を伸ばしますよ」と言いながら軽い運動を取り入れると、声かけにかすかな足の反応がありました。希望を持って取り組んだ結果、半年ほどで足を自力で動かせるようになりました。これにはご本人もお母様もとても喜んで下さり、その後のリハビリも積極的になりました。



筋肉量が多い若い人は、刺激に対して許容量があり、状態をよくするのに適切な圧を加えることが出来ます。この方もしっかりした筋肉がありました。そのため、重い障害でもこれだけの回復が出来たのだと思います。

社会復帰を目指す方も

若い方が社会に戻りたいと願うのは自然なことです。状態にもよりますが、比較的軽い場合はそれも十分可能な目標です。

50 代の男性患者さんも、会社に早く復帰したいと希望されていました。不全麻痺で歩行はなんとか行えましたが、筋肉の緊張がすぐに強くなってしまいう後遺症(緊張亢進)がありました。筋肉の緊張が強くなると、思い通りにならない身体に理想と現実のギャップを感じ、イライラする事もあったそうです。しかし、暴飲暴食が多かったなど、病前の反省を話す心の余裕もありました。今の状態を受け入れ、過去の振り返りが出来ている点で、気持ちが未来に向かっていてのを感じました。結果的に、1 年弱で会社に復帰し、電車通勤もこなす回復を見せて下さいました。

特に若い人には、ひっぱっていくというよりはサポートに徹した方が上手くいくケースが多い様に感じます。未来に期待も不安も大きい若い患者さんは、深く悩まれ考えられています。そんな時は一緒に伴走する人が横にいることで励みとなるようです。

マッサージの“良い副作用”、“悪い副作用”

マッサージには副作用があります。

副作用には、好転反応とよばれるものと、施術の仕方に失敗のあった悪い副作用があります。

好転反応とは



好転反応は、マッサージによって血液やリンパ液などの流れが促進されることで、体内に変化が起こり表れるものです。

好転反応としては、だるい、お腹が緩くなる、揉み返しのような軽い痛みがある（炎症のようなはっきりした痛みは悪い副作用です）、お腹がグルグル鳴る、眠くなる、などがあります。

この好転反応は、翌日か翌々日には症状が消え、その後はスッキリして快調になります。

ただ、即効性を求める健康な方には良いかもしれませんが、医療マッサージでは好転反応も好ましくありません。病気を抱えている方にとって劇的な変化は身体の負担になりますし、なにより好転反応を起こさずとも時間をかける事で確実によくなります。

悪い副作用

副作用として一番多いのは揉み返しです。

刺激圧の許容量は人それぞれで、かつその日の体調によっても変わります。

揉み返しは圧が許容量を超えたため、筋肉が傷つき、炎症を起こしている状態です。

好転反応と似た症状を示すことがありますが、好転反応は強い痛みを感じる事はありません。

患者さんの中にはマッサージに慣れていて「強いのが好き」という方もいらっしゃいますが

、技術があるマッサージ師であれば、軽い圧でも手技によって十分気持ちよく感じてもらえます。

その方の許容量を見極められて、刺激圧に慎重

なマッサージ師であれば、重篤な副作用になることはまずないでしょう。

医療マッサージ業界での副作用例

マッサージをするためには「あん摩指圧マッサージ師」という国家資格が必要です。

それは、マッサージが解剖学や生理学の知識がない人が行くと、肉体を傷つける可能性が高い行為だからです。

「あん摩指圧マッサージ師」は3年間専門学校に通い、国家資格に合格して初めて名乗ることができます。

医療マッサージに携わるマッサージ師は、国家資格を持っているはずですが、時に耳を疑う事例を聞くことがあります。

- 浮腫みの強い方に、健康な人と同じような刺激量でマッサージをして蜂窩織炎にしまった。
- 股関節の手術をした方に、無理な可動域訓練をして痛みを引き起こさせた。
- 背中を指圧し、肋骨を折ってしまった。
- 知覚神経が麻痺している患者さんに、ホットパックなどの温熱器具を同じ箇所に置き過ぎて、低温やけどを負わせてしまった。

残念ながら、患者さんの身体と刺激について認識が甘すぎるのだと思います。

医療マッサージ対象の方への施術は生半可な気持ちでは行えない、という心構えが必要です。

適切な刺激量というのは正解がないものですが、患者さんの今日現在の筋肉の状態や体力に常に目を向けていないと、自然治癒力を引き出す刺激には近づけません。

結果、ただ患者さんを観ず漫然とマッサージを続けているというのも、副作用ではありませんが作用していない、という点ではマッサージとして落第だと思います。

★三ツ星治療院です★ お気軽にご相談ください。メールでのご連絡も大歓迎です。

TEL : 070-5020-6164 メール : m3204@y-mobile.ne.jp